

令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画 【算数】

学 年	課題と なる観点	児童の誤答の傾向と分析 (○) 教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための≪指導場面 (指導時期)≫と具体的な取組
2	知識・技能	<p>○数の順序を考え、系列を作ることができない傾向が見られた。これは、数の順序を見ていく中で、並び方や数の大きさを捉えることができていなかったり、系列を作ることの意味を理解していなかったりしたためと考えられる。</p> <p>●数の系列をつくるうえで、前後の系列を捉えて系列を考えること、数の大きさを考えること、周りの数の大小から入る数を予想することなどの指導が不十分であった。</p>	<p>≪7月・2月≫</p> <p>「大小の関係を理解し、大小の関係を表すこと」を位置付けた単元により指導し、その中で、大小の違いを数直線で表して、数の系列や大小に気付かせる。</p>
3	思考・判断・表現	<p>○歩いた時間から家を出た時刻を考える問題であったが、「歩いた時間は10分」というキーワードから10分後だと考えていたり、短針の位置から時刻を正しく読み取れない傾向がある。このことから、時間の経過に伴う、時刻の変化に対するイメージが乏しいと考えられる。</p> <p>●時間の経過に伴う時刻の変化の定着が不十分であったと考えられる。</p>	<p>≪(7月)≫</p> <p>時刻と時間の学習では、時間が進むとテープが伸びる仕掛けなどを用いて、時間は連続量であることを理解させ、時間の経過のイメージをもたせる。問題文に書かれていることから時間が進むのか、戻るのかイメージしやすくするために、進む際は青色、戻る際は黄色などの色分けを行い、視覚的支援を行う。</p>
4	知識・技能	<p>○はかりに表示している目盛りは、かごに果物を入れた全体の重さであり、果物の重さは、かごの重さを引いたものであることが理解できていないと思われる。</p> <p>●はかりの目盛りを読む学習に重点が置かれ、入れ物と中身の重さを合わせた全体の重さや、入れ物や中身だけの部分の重さを意識した指導が不十分であったためであると思われる。</p>	<p>≪数量関係の授業(10月・12月)≫</p> <p>重さの学習単元は当該学年にないため、面積の学習単元や分数の学習単元などにおいて、部分と部分を合わせたり、全体から部分を引いたりして数量を求める学習を行い、重さの概念へと結び付けるような指導を行う。</p>
5	思考・判断・表現	<p>○1000円札の面積を求める問題であったが、cm^2とm^2の単位や大きさを間違えている児童が多かった。身の回りにある正方形や長方形の面積を実際に調べる中で、量感のイメージをつかめていないと思われる。</p> <p>●面積の学習の際、長さの単位間の関係を基に、面積の単位間の関係を捉えさせる指導が不十分であった。</p>	<p>≪三角形と四角形の面積(10月)≫</p> <p>適当な単位を考えられるように、図をかかせたりICTを活用した思考の場面を設けたりする。また、面積の大きさについての感覚を培えるように、身の回りの物の測定の経験を豊かにしていく。</p>
6	思考・判断・表現	<p>○面積の求め方は理解しており、面積を求めることはできている。しかし、図形が複雑な応用問題に課題がある。また、式から考えを読み取るという力が身につけていない。</p> <p>●複雑な図形の問題など、取り組む機会が少なかった。また、授業中に友達の考えを読み取る活動は行っていたが、ペアで考えた後、自分の言葉で説明し直すということが不足していたことが考えられる。</p>	<p>≪授業(通年)≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを読み取る機会をつくり、理解したことを自分の言葉で表現させる。 <p>≪スキルタイム≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な形を含む面積の問題を解いていく。 ・式を読み取るような問題も取り入れ、読み取ったことを説明する活動を設定する。